

第2回教育振興審議会における委員の発言要旨

人づくりの方向性

学ぶ意欲、夢を持つこと

意欲を持つ、夢を持つということが、学力が高くなることの喜び、何のために学力を高めるのかという点に対する一つの大きなモデルになるのではないかと。学校教育の中だけではなく、生涯学習、生涯教育、社会教育に密接につながっていることにはなるのではないだろうか。〔石垣委員〕

基礎学力の繰り返しの反復の知識を蓄えることはすごく大事だと思うが、そういうことばかりだと子供のモチベーションが上がらない。親や地域の支えというのはもちろん大切だが、一番本当に安心できるのが子供自身のモチベーションを高めてあげることだと思う。それに一番必要なのが、夢とか目標、憧れの存在だと思う。〔竹田委員〕

子供たちの姿を見ていると、やりなさい、やりなさいということばかりを強く言っても、意欲がなければ続かない。子供たちにどうやって分かる喜びや意欲を持たせるかというのが私どもの教育のキーポイントになっている。〔鈴木(安)委員〕

学びたいという意欲には、憧れとか目標が非常に大事だということを痛感している。世界的に活躍している地元出身の洋画家を学校に招いたことにより、子供たちの学習への意欲が芽生えてきたように思う。お金を出さないでボランティアでやっている。ぜひ子供たちが将来にわたっていいモデルをみつけて、あんなふうになりたいな、こんな夢を持って世界にはばたきたいな、あるいは地元に戻つてもこんな栗原をつくりたいな、こんな宮城県をつくりたいな。そんな子供たちをつくりたい。そういう願いを宮城の教育に反映させたい。〔鈴木(安)委員〕

小学校や中学校の教室に、学活の時間などに社会人の方、つまり働いている方やボランティアとかNPOをやっている方が来て、いろいろお話をしてあげたりというようなことをしたらいいのではないかと。テレビや本だけでは生身の人の意見や気持ちが伝わってこない。人は人と接して磨かれるものであって、その中で子供たちも自分の選択肢も見えてロールモデルを探したりすることが大切なのではないかと思う。教育は、子供にチャンスとか選択肢をより多くしてあげるのが一番である。子供が成長してこれがやりたいと思ったときに、例えば、勉強を今までしてこなかったからそれはできないとか、後々後悔するようなことになってはかわいそうである。なので、もっといろんな選択肢があるから、その選択肢を選ぶために頑張るべきだけれども勉強するんだよという、そういう方向性で子供のモチベーションを上げて、自主的なものを育ててはどうかと考える。〔竹田委員〕

人間関係づくり、コミュニケーション能力

今求められている能力として、コミュニケーション能力とか思いやりとか、それから命を大切にということ、基本的には人間関係づくりという部分があります。これから求められているって当然である。教科以外の部分での人間関係をきちんと位置づけていく必要ももう一方にあるのではないかと。〔庄司委員〕

自立心

保護者にしても一般市民にしても、比較的最近教育を受けて成人した人たちが、自立心の項目を余り評価しないという傾向が見える。具体的には、この世代がこれから増えていくわけで、我々は、この世代に次世代を託さなければいけないわけであるので、この傾向を顕著にしていくと、どういうことになるかというのが懸念する事項の一つだと思う。〔四ツ柳会長〕

学力調査結果の検証・分析

学力調査の結果が仙台市と仙台市以外で大きく異なり、宮城県全体が低水準にあるのが現状。全国学力調査の結果を教育委員会として分析していく必要がある。県民意識調査と相まっているところが浮かび上がってくると思う。〔梅原委員〕

学力調査の結果は、同じようなレベル、同じような地域の状況でありながら、大きな差が出ているのは何が原因か。教職員の取組みの問題なのか、あるいは地域にその問題があるのか、しっかりと検証していかねばならない。〔佐々木(功)委員〕

学力調査の結果の差は、非常に複雑多岐にわたる要因が考えられるが、処方箋がなくはない。秋田や富山、福井を見て、どういふ処方、療法を施したら、どういふ効果が出るか、秋田のケースは非常に有力な資料を提供していると思う。〔梅原委員〕

学力調査結果に見る差とは、親御さんの意識、それから所得水準が関係している。塾なり学校教育以外のところで補完し、生きていくという選択をしている。それには当然対価を伴う。それを秋田県においてはどのようなモデルを目指して、何をやってきたか、「少人数学級」と経験的にとりあえず回答しているかもしれない。日本中から今秋田に調査団が来ている。首都圏の電車の吊り広告にも、塾の広告にも「秋田県に学べ」と書いてある。〔梅原委員〕

知・徳・体のバランス、生きる力

知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を持った人間の育成が大事である。〔鈴木(安)委員〕

知・徳・体の三位一体について全面的に賛成である。〔梅原委員〕

全国学力テストの結果という、学校における教育活動の一つの側面に過ぎないところをもって、その地域やその学校の教育が良いか悪いかという評価を受けているような風潮になっていることは非常に問題ではないか。教育とは、まさに知・徳・体のバランスのとれた成長を目指す子供ということが、目指すべき方向性だろうと思う。宮城の教育については、教育活動全体を踏まえた判断で知識・徳・体力の三つが一体となった教育方針をどう打ち出すべきかという総合的な判断で評価されるように是非考えていただきたい。〔佐々木(功)委員〕

家庭・社会との連携

子どものしつけ

一つの問題点として感じたのは、子供に礼儀やしつけをしっかりと教えるといったことを地域に求めているということが極めておかし。家庭の中でこの優先度が低い。すなわち今の方々というのは、しつけというのは家庭の問題でないという意識を持っている。これはよく言われていることなのだが、この調査からも見えてきている。県民意識自体の憂慮すべき問題点であり、そこにどう我々が対処するかということを生懸命考えなければいけない。〔川島委員〕

ワーク・ライフ・バランス

アンケート結果から、今の地域社会の問題点の一つとして、ワーク・ライフ・バランスに問題があるということに一般県民が気づき出しているのが分かる。今の親たちに対する啓蒙は、内閣府等がやればよいが、施策の中で意識を変えなければいけない大きな問題の一つであるので、こちらの審議会等々の中でも特に今の中学生、高校生にワーク・ライフ・バランスといったようなものの感覚をつけてあげるような教育を考えるとということも、一つ施策として挙がっててくると私は読み解いた。〔川島委員〕

基本的な生活習慣

大人の再教育が必要。子どもと一緒に朝食を食べさせるということから始めなくてはならない。大人も子どもも本を読む量が圧倒的に減ってしまっている。〔梅原委員〕

家庭の地域社会との関わり方

「身につけた知識や技能を社会のために活用できる力を持つこと」ということの優先度が極めて低い。保護者、一般の方々の自分の子供、自分の家族を見た意識としては社会と関わろうという意識は極めて低い。にもかかわらず、子供の教育環境でどういふことが大事かということに関して、「安心安全な地域づくりが必要だ」と、社会や地域が大事だということも言っている。また、「地域社会の風潮を何とかしなければいかん」ということを言っている。すなわち自分としては地域と関わるということも求めているが、地域が自分らに関わるとを求めているということが、今の家庭の大きな問題点として、この調査が見せてくれていると感じた。〔川島委員〕

「地域の行事に熱心に参加する、地域を支えることが大事だ」、それから「社会を良くしようとする人」という選択肢に対する大事さを答えた方が非常に少ないということに、ある意味危機感を抱いた。〔川島委員〕

教育行政・制度など

みやぎ新時代教育ビジョン

平成9年策定の「みやぎ新時代教育ビジョン」には、「学力」という言葉が一度も出ていない。「人づくり」という広い概念の中に包含されるという整理であろうが、いわゆる国の進めてきた「ゆとり教育」路線を、地方バージョンで裏づける実態が示されていると私は理解した。〔梅原委員〕

学校の耐震化

まずは耐震化である。仙台市は耐震化率は高いが、県はまだまだ十分ではない。耐震化の問題を、子供たちの体力、体づくりを考えたときに、まずはお金をかけるべきところに惜しみなくお金をかける。その工面が大変だが、例えばふるさと納税の仕組みで使えないかとか、宝くじ投入できないかとか、いろいろな研究をしている。〔梅原委員〕

県立高校の共学化

別学校には別学校の、共学校には共学校の良さがある。県教委が進めている今回の県立高校の一律化は、現状において明らかに、公立高校について自由な選択肢が完全に奪われている。そのことについて宮城県民の多くは不満を持っている。これは是非しっかりと受けとめていただければと思ってる。〔梅原委員〕

開かれた学校づくり

高等学校教育についての設問で「わからない」という答えが一番多かった。目ごる開かれた学校づくりに、各学校で取り組んでいるが、数字からだけ見ると、学校の中に生かされていないという状況があるということを感じた。〔庄司委員〕

校庭の芝生化

校庭の芝生化を全県に広めたい。まずモデルを示して、子供たち本人、そして親御さん、地区の方々、地域の人たちと一緒にメンテナンスしない、ととまじやないが芝生化はすぐにだめになってしまう。これについて宮城県民の多くは不満を持っている。これは是非しっかりと受けとめていただければと思ってる。〔梅原委員〕

公平に子どもと接する教員(教員の資質)

教員の資質とは何ぞやということに関して、このアンケート調査の中で、我々が手がかりにするものがある。「公平に子供と接する教員」という割合が小中とも非常に高い。子供への教え方が上手だということは、当たり前のこと考えると、その次に子供と公平に接することのできる技能があるということを保険者の側が特に強く求めているというのは重くとるべきだろう。すなわち教員の資質として何を大事と捉えているかというときに、家庭の方々、地域の方々も求めているのは、公平性だと言える。逆を返せば教員の方々も子供たちに公平に接していると感じていないというのが、極めて大きな問題であるので、ここは積極的に対処すべきことの一つだろう。〔川島委員〕

県民意識調査・意見聴取会の実施方法

アンケートにおいて、傾向があるということと差があるというのは全く違う話であるので、この差というものが統計学でいうところの有為なものかどうかの検討は、ぜひやっていただきたい。〔川島委員〕

意見聴取会参加者は、極めて教育に対する意識の高い人である。一般からの意見44通も極めて教育に関心のある人である。私たちはこのデータからさらにその後ろのアンケートも読み込みながら本当の一般の方々が何を感じているかということまで思いを馳せなければいけない。そういう意味では、私はこの自由記載の方は半分開いた形で意識して読むべきだと思う。本来我々がたいに読み解かなくてはならないデータは後ろのアンケート調査で、一般の方々、保護者の方々もどう捉えられているかということからどんなメッセージを拾えるかということではないかと私自身は思った。〔川島委員〕

アンケートの保護者の回答は女性が非常に多い。その回答の中でも、親とのコミュニケーションをどう確保するか、非常に高い関心が寄せられている。コミュニケーション不足の原因は、女性だけのアンケートの中からそれを見つけて出すのは少し難しい。男の保護者の方の回答も考えていく必要があるのではないかと。その後、コミュニケーションが不足している。コミュニケーションを非常に大切にしたい、社会とのかかわりを大切にしたいといった場合には、非常に大きな力になるのではないかと。〔石垣委員〕

生涯学習、社会教育

学び続けること

生涯学習は間違いなく重要なテーマであって、そもそも学力の問題を語るにしても、しつけにしても家庭教育にしても、大人の教育、再教育というところにつながっていく。いろんな地域を挙げてのいろいろな取り組みというのは、学校教育現場も大事だし家庭教育も大事なんだけれども、やはりこの議論の中できちっと明確に位置づけて進めるべきである。もしアンケート調査で抜けている部分があるならば、もう2回でも3回でも、もう1回修正した設計をして、また追加的に県民の意識を聞いてみればよい。〔梅原委員〕

我々が注目すべきは、県民たちは生涯学習を目指す人というものの教育を必要としていない。そこを目的としていないということが意識調査の結果出ている。いつも学び続け自分を高める努力をする人を作ろうという優先度が、割と低い。これは教育を鳥瞰的に見ている人間の思いと現場にいる人たちの思いが乖離しているポイントの一つでもあるので、うまく施策に乗せていかないと広まらないだろうと感じる。〔川島委員〕

地域の人づくり

広い目で見ると、教員にも小学生、中学生の数でなくて、それ以外の、子どもたちを取り巻く人間の方が圧倒的に多く、その人たちが地域を構成している。その人たちがどういふ考えでどういふ意識でどういふ行動をしているかということが、最終的には子供たちにも学校教育にも、物すごく影響を与える可能性がある。そういう観点からすると、社会教育的な物の見方をしていくとか、地域に住む人たちの人づくり的なところに力を入れていくことが、最終的には子供たちにすべて還元されていくということも考える。宮城県の教育、宮城らしい教育というのは、社会教育、生涯学習関係に力を入れていくことにより、この地域に住んでいる子供たちもい影響を受けていくという発想で物事を見ていった方がよい。〔石垣委員〕

今のキーワードとして、学校と社会があるが、その社会、あるいは社会人が一代前と大分違うものに変化している。子供の教育うんぬんを言うときには当然社会の、あるいは社会人の教育をどのようにしていくのかという議論もポイントだと思う。〔伊藤委員〕

地域の人材活用

教員OBの活用や、教員免許を持ち、家庭に入っているお母さん方など、潜在的な教員は、この社会はかなり持っている。今日本では、非常に人件費にお金をかけられない状況の中で、次世代の見直しをやらなくてはいけない時期に来ているわけですが、そんなこともあわせて議論をしていく余地があるのではないかと。〔四ツ柳会長〕

教育の層の厚さを何とかしてはという施策とは、教員でない人たちの参加を促す対策があるのではないかと。〔四ツ柳会長〕

今生涯教育は二つの視点があり、一つはその教育を受ける側の人の生涯教育、それから、リタイヤした人とか教員OBの方々、何らかの意味で社会の生涯教育に参画することを通して、受益者の利益にもなると同時に本人の生きがいや、さらに深い人間的な完成を目指した達成の効果もある。ですからその反対側の方の効果のことについては踏み込んでいないが、社会とすれば潜在的にある教育力の活用、それからそれをお持ちの方の生きがいを生かしていくという意味も、十分にこれからはあるかと思う。〔四ツ柳会長〕

社会・社会人の変化

社会が変わっているのは確かである。その影響を子供たちは受けている。同時に社会をうまく生涯教育の中で生かしていくという部分もある。〔庄司委員〕

宮城らしい教育

おやじの会ネットワークの活動などを通じて、宮城県は生涯学習や地域の家庭教育支援を積極的に進めていると私は思っている。こういうものが学校で学ぶ意欲や、自分が学んだ結果を何に使うかということと非常に密接につながってくるものだと思う。そういうものにどう学校教育を結びつけていくかというプロトコルをしっかりとっていくこと、そういうことを支援していくような施策を考えていくことが、宮城らしい教育につながっていくのかな、と感じている。〔石垣委員〕